

## 令和5年度 E I K Oデジタル・クリエイティブ高等学校 自己評価表

目指す学校像	「知の創造者たれ」の教育理念に基づき、「Society5.0」近未来型スクール構想をコンセプトに、デジタル（デジタル人材の育成）、クリエイティブ（新しい価値創造）、ダイバーシティ（多様性の尊重）、インクルーシブ（共生社会の形成）、SDGs（持続可能な社会の実現）をキーワードに、「主体的に学び、自由に発想し、新しい価値を創造する人材の育成」を目指す。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
開校に向けて、校名と教育方針を周知し、入学生の獲得に努めた。その結果、水戸本校30名、浦和校11名、合計41名の入学生を受け入れることができた。 本年度の課題は、充実した授業・学校行事の実施と、新入生・転入生・編入生の獲得、卒業生の進路実現を図ることである。	基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣いを身につけた人格形成を目指す。 ・公共の場でマナーをわきまえた行動ができるよう指導する。	A	
	安心して安全な学習環境の整備	・「いじめ、暴力は絶対に許さない」との共通認識のもと、教職員、生徒、保護者が一丸となってその防止に取り組む。 ・いじめや暴力を未然防止・早期発見し、法に則った対応をする。	A	
	学習習慣の確立と進路目標の実現	・学習や授業に正しい姿勢で臨ませる。 ・高い進路目標を立て、その実現のために継続して努力させる。	A	
	特別活動の充実	・諸行事を通して、他人を思いやり、協力し合う心を育てる。	A	
進路目標の実現	・進路決定率100%を達成し、生徒・保護者の満足度を上げる。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	・円滑な業務運営を実現する。	・それぞれの教職員が多様な業務を遂行できるよう、日頃から業務内容・業務手順の共有化を図る。 ・メールや各種IDの共有化、諸表簿の整理整頓を進め、教職員の自由な情報アクセスを可能にする。 ・校務分掌や各種行事の役割分担などで適材適所を進める。	A	引き続きオープンな校務運営を心がけたい。
	・教職員の資質向上に努める。	・校内研修会を開催し、通信制高校に特有の課題とその対処について理解を深める。 ・校外の研修会等へ教職員を派遣し、指導力向上を図る。	A	
	・業務の効率化を図り、教職員の心身の健康を守る。	・校内ネットワークを整備し、ペーパーレス化や教職員間の情報共有を促進する。 ・クラウドを活用し、校舎間（水戸・浦和）の情報共有を促進する。 ・教職員全員で効率的に業務を遂行できるよう、行事等の実施要項の作成・配付を早めにおこなう。	A	
	・個人情報への配慮を高める。	・個人名が記載された書類はシュレッダーを使用して処分する。 ・パンフレット等へ生徒氏名や写真を掲載するにあたり、事前に保護者に確認し承諾書をいただく。	A	
	・保護者との連帯を強化する。	・学習状況や生活状況について保護者との連絡を密に取り、信頼関係を醸成する。 ・学年通信を毎月発行し、学校での学習状況、生活状況、学校行事などについて保護者に報告する。 ・三者面談を年2回実施し、保護者との情報交換をおこなう。	A	
学習指導	・単位認定に向けて手厚い学習指導を施す。	・レポート課題の添削時に、さらなる学習につながるよう、個に応じた適切なコメントを付与する。 ・期限までにレポートが提出されない生徒に対して、提出催促のメール配信をおこなう。 ・スクーリング実施にあたっては、レポート学習での課題を踏まえた適切な学習課題を準備し、学習の深化を図る。 ・単位認定試験実施にあたっては、学習課題を的確に捉えた適切な試験問題を準備する。	A	生徒一人ひとりの理解状況に応じて課題を提供するとともに、学習方法・取組姿勢について適切なアドバイスを図る。
	・学習環境の充実を図る。	・スタディールームを設置し、静寂の中で自学自習できる環境を用意する。 ・生徒が教科担当教員に自由に質問できる体制を整え、個別指導の充実を図る。	A	
生徒指導	・安全で安心した学校生活を送れる環境づくりに努める。	・生徒間の問題に対しては、教職員が適切な指導をおこない、話し合いで問題解決する習慣を身につけさせる。 ・適宜校内巡回をおこない、不審者の侵入を未然に防ぐ。 ・相談窓口を設置し、生徒および保護者の心のケアを充実させる。 ・施設設備の点検をおこない、不備があれば迅速に修繕する。	A	一貫した指導を徹底させ、マナー向上を推進する。 安全面については細部への配慮を怠らず、気づいたことから確実に処理する姿勢を継続する。
	・いじめや暴力を許さない雰囲気醸成を図る。	・年に2回、いじめアンケートを実施するほか、日頃から積極的に生徒に話しかけることで、SOSを出しやすき雰囲気醸成し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・生徒や保護者からの相談に真摯に向き合う。 ・いじめや暴力が発生した場合には、法令や本校のいじめ防止基本方針に則って適切に対応し、早期解決を図る。	A	
	・品位とマナーを身につけた人格形成を目指す。	・学校生活を通して、報告・連絡・相談を意識させ、習慣化させる。 ・社会人として求められる規範意識やマナーを身につけさせる。	A	
	・インターネット、携帯電話の正しい使い方を身につけさせる。	・各種アカウントの管理を徹底させ、トラブルの未然防止に努める。 ・顔写真や個人情報などのSNS投稿に注意を呼びかけ、犯罪に巻き込まれないための方法を習得させる。	A	
特別活動	・集団活動を通して様々な力を身につける。	・希望者を対象に宿泊学習を実施し、協力して課題の解決を図る力を育む。 ・希望者を対象に修学旅行を実施し、幅広い教養を身につけさせる。 ・スポーツフェスティバルや文化祭を実施し、団結力を高め、自己表現する力を伸ばし、目標を達成する姿勢を培うとともに、仲間を応援する優しさを育む。	A	2年目は1年目よりも参加者増を図っていききたい。
	・質の高い学問・芸術に触れさせる。	・校外学習で博物館や美術館を訪問し、本物に触れる機会を設ける。	A	
	・他人を思いやり、協力し合う心を育む。	・ボランティア活動を実施し、地域社会に貢献する心を育む。 ・毎月ホームルームを開催し、講話や様々な取り組みを通して、豊かな人間性の育成を図る。	A	
	・心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	・保健だよりを毎月発行し、健康増進のために有益な情報を発信する。 ・内科、歯科、耳鼻科の各検診を実施し、生徒の健康状況を把握するとともに、健康増進のための適切なアドバイスを提供する。	A	
保健厚生	・学習環境の整備に努める。	・毎朝校舎内外の清掃を実施し、清潔感ある学習環境を維持する。 ・教室内の空気・照度調査、飲料水の水質検査を実施する。	A	新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も継続して健康維持・健康増進への取り組みを強化する。
	・新型コロナウイルス感染症の予防に努める。	・消毒液の配置、サーキュレーターの設定など、感染予防のための環境整備を進める。 ・手洗いうがいの励行、手指消毒の徹底、マスク着用などの啓発活動をおこなう。 ・感染者または濃厚接触者が発生した際の対応について整備する。	A	
進路指導	・早期から卒業後の進路についての意識づけをおこなう。	・二者面談、三者面談を実施し、生徒および保護者の進路希望を適切に把握する。 ・進路希望アンケートを実施し、個々に応じたアドバイスを提供する。 ・キャリアデザイン講座を年7回開催し、大学、専門学校、就職それぞれの進路に関するスケジュールや手続きについての理解を深める。	A	進路情報の収集・提供の強化・充実を図り、信頼性のさらなる向上に努める。
	・卒業時の進路決定率を高める。	・大学入試の方法、日程についての理解を促進する。 ・模擬試験を活用し、適切な進路指導をおこなう。 ・大学や専門学校のオープンキャンパスについての告知をおこない、主体的な情報収集を促す。 ・求人票の掲示をおこない、業種や企業の比較検討を通して、主体的に進路選択をおこなう素地を作る。 ・エントリーシートの書き方や面接の受け方について個別指導を実施し、進路決定につなげる。	A	
生徒募集	・本校の教育方針・教育内容等について周知し、入学者数を増加させる。	・学校紹介パンフレット、リーフレットを作成し、本校の教育方針、教育内容等について広く知っていただく。 ・個別相談会、eスポーツ体験会を開催し、多数の来校を促す。 ・ホームページやinstagramでの学校紹介を充実させる。 ・中学校と高校を訪問し、本校をPRするとともに、入学生の学習状況について情報交換する。	B	内容・方法のさらなる充実を図りたい。
リベラルアーツコース	・各人の個性に応じた学習スタイルを確立する。	・リベラルアーツ講座を年12回開催し、多様な価値観に触れさせる。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、学習支援計画を作成し、特別な配慮のもと、一人一人に応じた丁寧かつきめ細かな指導を実践する。	A	一人一人に合った対応を心がけていきたい。
スーパーアドバンスコース	・ハイレベルな学習に取り組むとともに、大学入試に向けて十分な対策をおこなう。	・毎週水曜日にスーパーアドバンスゼミを開講し、大学入試に向けた情報収集や入試問題演習をおこなう。 ・模擬試験を活用し、学習の到達度を客観的に捉え、学習スタイルの振り返りをおこなう。	A	共通テスト、各校入試に向けてより本格的に取り組むたい。
eスポーツコース	・競技技術の向上を図るとともに、eスポーツ業界への理解を深める。	・専任講師および外部講師によるハイレベルな技術指導を提供する。 ・各種eスポーツ大会に参加し、好成績を収める。 ・イベント企画、動画編集、ゲーム実況などの授業を通して、周辺技術の習得を図る。	A	引き続き専門性の高い指導をおこなっていききたい。

※ 評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない